

1-1. 事業概要

2017年度は、台風3号による7月5日～6日の九州北部豪雨、10月11日に始まった霧島山（新燃岳）の噴火等の局所的な自然災害の発生はあったものの、建築構造に係る大きな被害を伴う自然災害の発生はなかった。

一方、建築物の構造関係技術基準関連については、2016年6月24日に発出された「超高層建築物等における南海トラフ沿いの巨大地震による長周期地震動への対策について（技術的助言）」で示された超高層建築物等の性能評価における長周期地震動の採用が2017年4月1日から開始され、また、2014年2月の降雪後に降雨が重なった地域（群馬県、埼玉県、東京都等）において、緩勾配屋根の被害が多かったことから、社会資本整備審議会 建築分科会 建築物等事故・災害対策部会における検討及び、パブリックコメントを経て「大スパン、緩勾配、重量が軽い」屋根に対して「積雪後の降雨を見込んで割り増した積雪荷重により構造計算を行う」よう平19国交告第594号第2第三号の改正が2018年1月15日に公布（施行は2019年1月15日）されるなど、防災を意識した改正が行われた。また、「防災拠点等となる建築物に係る機能継続ガイドライン」が策定され、2018年3月30日にパブリックコメントの募集が開始された。このガイドラインでは、JSCA性能設計【耐震性能編】が参考となる指針等の一つとして紹介されている。

JSCAは本部技術委員会等の協力を得つつ、会長会議を主体にこれらの事項に対応し、求めに応じて委員を派遣するとともに、必要に応じて適切なタイミングを計りE-Mail等により会員への情報提供、周知を行ってきた。また、2017年度を迎えるにあたって定めた活動方針に従い、担当委員会等で活動を行ってきた。以下では、活動方針の中で重点目標とした事項を中心に活動の概要を報告する。

1) 会員の増強と次世代の構造設計者の育成

(1) 本部・支部における会員勧誘の強化

(2) 次世代の構造設計者を目指す学生会員の増強

- ・2016年度に広報委員会で作成した学生及び若手会員勧誘のためのリーフレットを活用し、構造デザイン発表会ほか、本部及び支部で開催した学生や非会員が参加する各種講習会等で配布した。
- ・会員減少傾向及び会員平均年齢の高年齢化は継続しているものの、本部・支部における地道な若手会員勧誘活動の結果、40歳未満の正会員数が2017年3月理事会時点で225名であったものが、2018年3月理事会時点では254名に増加し、学生会員も6名から10名にわずかながら増加した。

(3) 「構造デザイン発表会」および研修活動等による中堅・若手世代の構造設計者の職能研鑽

- ・構造デザイン発表会を10月13日に東京で開催、それを契機に入会した会員は29名であり、入会のきっかけとして機能している。
- ・構造デザイン交流会等の名称を用いた構造デザイン発表会の支部版が関東甲信越支部を除く全支部(7支部)

で開催された。

- ・若手向けの構造設計実務者研修基礎編はJSCA東京で開催、中堅向けのスキルアップセミナーは四国支部と関東甲信越支部を除く6支部及び本部で開催した。

2) 性能設計の普及に向けた活動

(1) JSCA性能設計説明書（案）【耐震性能編】の試行運用

- ・2016年10月に会員専用HPにて標記説明書（案）2016年版を会員限定で公開し、会員の試行運用に供した。
- ・試行運用を通して寄せられた意見を技術委員会性能設計部会で検討の上で内容を見直し、2018年2月に（案）をとり改訂したパンフレットを会員限定公開、引き続き2018年3月末に一般公開及び、JSCA性能設計説明書2017年版【耐震性能編】の会員限定公開を行った。
- ・改訂したパンフレット及び説明書は、3月末に国交省からパブリックコメントが発出された「防災拠点等となる建築物に係る機能継続ガイドライン」でも参考となる指針等の一つとして紹介された。（前述）

(2) 非構造部材の構造安全性の確保に向けた活動

- ・技術委員会の下で2016年度まで活動した非構造部材検討特別部会は6会共同提案等、一定の成果を上げたが、さらに検討すべき事項も多々あることから、2017年度から技術委員会の下に定常的な活動を行う非構造部材部会を新設し、活動を開始した。

(3) パンフレット「安心できる建物を作るために」の見直しおよび社会に向かっての広報活動の強化

- ・一般向けHPでバナーの形で公開し、市民に活用いただいていた。
- ・広報委員会にて行政窓口等での配布を意図したリーフレット（案）を作成したが、素材の著作権等の整理を行う必要があり、継続検討中である。
- ・標記パンフレットに記載されている性能設計に係る記述は、(1)に記したごとく性能設計説明書【耐震性能編】が改訂されたので、見直す必要がある。2018年度の課題である。

3) JSCA建築構造士の広報の強化と将来像の検討

(1) JSCA建築構造士の広報の強化

- ・インタビュー等の機会を捉えての森高会長によるJSCA建築構造士の有用性のアピールのほか、2016年度にアップデートしたリーフレットをHP掲載し、広報に努めたほかは、特段の活動は行わなかった。

(2) JSCA建築構造士の将来像の検討

- ・建築構造士制度委員会で検討中であるが、2018年度にも引き続き検討を行う。

4) 木造建築の構造設計技術の向上

(1) 木造関連委員会の整備と拡充

(2) 中・大規模木造建築の構造設計に係る情報整備

- ・技術委員会木質系部会は、木構造に関する最新技術の普及展開及び、告示新設ないしは改正に係る諸検討を

通しての実務者意見の反映等に一定の役割をはたして来ているが、木造建築の普及及び会員への情報提供等を担うWGとして、木質系部会の中に新たにJSCA中・大規模木造建築物の構造設計支援WGを設置し活動を開始した。

- (3) 木造関連会社との技術交流および委員会活動等の活性化
 ・特段の活動は行わなかった。2018年度の課題である。

5) 既存建築物の安全・安心の確保

- (1) 耐震診断・改修に関わる判定業務の継続
 (2) 耐震診断・改修に関わる構造設計者支援
 ・耐震診断・補強判定委員会における判定業務を継続実施した。判定実績は受付レベルで126件、東京都との協定に基づく確認は1件であった。詳細は耐震診断・補強判定委員会の報告を参照。
 (3) 構造相談コーナーの継続
 ・2014年3月開設の建築構造相談コーナーを2017年度も継続運用したが、電話でのやり取りで済む程度の軽微な相談ないしは、事務局で所有者と施工者の仲立ちを行った1件を除くと、面談による相談に至ったものはなかった。
 ・上記軽微な相談や仲立ちを行った1件は全て個人住宅に関するものであり、不具合に係るものであった。

6) 第28回JSCA賞

2017年6月20日開催の総会における表彰式に引き続き、総会后、JSCA賞委員長からの応募作品の紹介を含む選考経過報告及び受賞記念講演会が行われた。
 作品賞 奥出久人：市立吹田サッカースタジアム
 奨励賞 浜田勇氣：日本橋ダイヤビルディング
 新人賞 川口 恵：G. Itoya
 新人賞 斎藤慶太：TOYAMAキラリ
 業績賞 瀧 正哉、黒川泰嗣
 ：新宿三井ビルディングの制震改修
 業績賞 宮里直也
 ：国内外のAND巡回展による構造設計（者）の顕在化と活性化への貢献

1-2. 役員／体制

□役員	
会長	森高英夫（代表理事）
副会長	一條 典（代表理事） 嵐山正樹 横山一智
専務理事	福島正隆（業務執行理事）
常務理事	飯田直彦（業務執行理事）
理事	
本部担当	上田博之 江尻憲泰 大岡 彰 菊池正彦 小西泰孝 小林秀雄 関 洋之 辻 泰一 鳥井信吾 早野裕次郎 久田基治 細澤 治 村田耕司
支部担当	北海道 向山松秀 東北 加藤重信 関東甲信越 尾田文雄 中部 二宮利治 関西 山浦晋弘 中国 清水保雄 四国 片岡輝久 九州 原 英基
監事	近藤一雄 水津牧子 吉田 守
□支部長	各支部担当理事が兼務
□協会顧問	弁護士 服部成太 公認会計士 元森俊雄
□事務局員	職員数4名（うち大阪1名）

1-3. 会員数の推移

年度	正会員	一般会員	学生会員	賛助会員	名誉会員	学術会員	JSCA建築構造士	構造設計一級建築士
00	3618	120		261	29	229	2527	
01	3618	127		249	28	233	2569	
02	3572	133		240	28	237	2561	
03	3551	139		234	25	238	2547	
04	3542	135		235	21	192	2536	
05	3606	147		254	31	186	2531	
06	3816	152		247	30	185	2692	
07	3907	154		241	30	183	2771	
08	3876	156		228	23	178	2696	
09	4000	144		224	25	169	2590	
10	4020	135		227	29	165	2457	※3275
11	3983	131		233	28	163	2249	※3368
12	3925	131	6	230	28	157	2183	※3342
13	3909	129	8	227	26	155	2113	※3355
14	3929	134	7	231	25	151	2030	※3388
15	3910	126	6	235	25	147	1957	※3353
16	3867	122	6	234	29	145	1862	※3342
17	3853	88	10	234	32	143	1785	※3308

※構造設計一級建築士証の写しを添付し、本協会に届け出た会員の数である。